



▼渡り鳥や水鳥の飛来する十市の石土池で六月七日、釣り人が捨てた釣り糸の被害から野鳥を守ろうと、十市小生校の全児童・教職員・保護者、初参加のアトム幼稚園児とその保護者ら合わせて約五百人が回収作業を行いました。参加者らはごみ袋を手に池の周辺を丹念に歩き、捨てた釣り糸のほか、空き缶などのゴミをトラック二台分収集しました。



石土池で釣り糸などを回収



子どもの人権を守ろう！

▲子どもの人権を守ろうと、積極的に啓発活動を展開している人権擁護委員らが5月30日、ひまわり幼稚園（阿蘇町）を訪れ、同委員さんの話に園児たちが興味をもち、聞きめい耳を傾けていました。また、園児全員に夏船のプレゼントがありました。



西内誠子選手を招き陸上教室

▲小学生に陸上競技に親しんでもらおうと、市教委が主催している小学生陸上教室に女子三段跳び日本記録保持者の西内誠子さん（羽崎市上分中教諭）を招き、大藤小学校で5月24日、子どもたち52人が、リレーでのバトンの手渡し、受け取り方や速く走るコツなどの指導を受けました。



白木谷小児童が梅の実を収穫

▲6月2日、白木谷の「福祉の梅林園」で、同小学校の全校児童らが梅の実を収穫。児童らは、骨々とした実を民生委員さんと協力し合いながら取っていました。収穫した梅は、老人ホームなどに配られたり、梅ジュースにするそうです。



オフィスパーク
四銀事務センターが落成
▲オフィスパークへの立地第一号として進出を決め、昨年一月から建設工事が進められていた、四国銀行事務センターがこのほど完成し、六月十一日、関係者が出席して落成式典が催されました。新社屋の従業員規模は約二百五十人で、来年一月から稼働する予定です。



みんなで国際交流

▲市内に在留留学生や外国人と国際交流に関心を持つすべての人たちが一堂に会し、交流することによって国際交流に対する理解を深めてもらおうと、5月31日、グレース浜野しを会場に「みんなの国際交流・IN・NANKOKU」が開かれました。この日は市内外から約130人が参加、手品やO×クイズを楽しみました。



ほたるまつり親子連れでにぎわう

▲六月七日、才谷雄馬公園でほたるまつりが開かれ、親子連れら約四百人ににぎわいました。参加者は宝探しやビンゴゲームを楽しんだ後、辺りがうす暗くなると、ほたるの観賞へとちやうらん行列、ほのかな光をはたしながら飛ぶほたるを堪能しました。

女性防火クラブに新しい仲間が
▲婦人防火クラブの発足式が、五月三十一日、土曜市広場で行われました。今回「藤寿会（大塚）」、「いちもんめユナイテッド（大塚）」の両婦人防火クラブが新たに発足し、南国市婦人防火クラブ連合会に加入、家庭から絶対防火を出さないと、力強く決意の言葉を述べました。



文化ホール建設に役立てて

▲6月2日、文化の森を育てる会は、文化ホール建設に役立ててもらおうと、「第5回チャリティ舞踊会」でのパゾーの収益金10万円を市に寄贈しました。



恒例行事です。市内一斉清掃

▲6月1日、市内で恒例の一斉清掃が行われました。朝早くから市内全域で溝掃除や空き缶拾いなどが行われ、子ども会活動の一環として参加する子どもたちの姿もあり、市民総出でのゴミ収集となりました。



白髪山の自然を訪ねて

▲女性仲間での自然を楽しもうと、58人の参加者が6月1日、物部村の白髪山へ登りました。クマザサの広がる緩やかなスロープが続き、360度開ける大パノラマ。北に三嶺、西南が大きく迫り、東には剣山、次郎笠を望むことができ、一行は新緑したたる白髪山でさわやかな汗を流しました。



初夏の風物詩エンコウまつり

▲6月1日、前浜や久枝の長川筋一帯で、恒例のエンコウまつりが催されました。子どもたちはショウブの葉などで作った「ほこら」にエンコウが好物のキュウリやお酒を供え、ことしも水の事故がありませんようにと、手を合わせていました。



熱心に聞き入った市民大学

▲学習することで新しい感動を発見し、相互の思いやりと生きがい求めてもらおうと、第十七回市民大学が大蔵公民館などを会場に五月十六日開講、最終日の六月十四日まで五講座が開かれました。各界から講師を招き、文化、高齢化社会、歴史、地質、人権問題について学習、それぞれの講師の熱心な参加者らはメモを取るなど聞き入っていました。



丹精込めて育てました

▲5月22日から26日、中央公民館でサツキサークルの「花季展」が開催されました。木かけや鉢回しなどに気をつけながら育てあげた11鉢の力作を展示しました。

